

微生物から生まれた殺虫剤!!

# コロマイト<sup>®</sup> 乳剤 水和剤

乳剤：農林水産省登録 第18406号 ミルベメクチン…1.0%

水和剤：農林水産省登録 第19656号 ミルベメクチン…2.0%

コロマイト<sup>®</sup>、ミルベノック<sup>®</sup>は三井化学アグロ(株)の登録商標です



北海道の神社

床下の土壌から  
採集した

**放線菌**



培養



有効成分を抽出・精製  
(精製工程での化学変換はありません。)



製造

ご存知でしたか? **ミルベメクチン剤 コロマイト<sup>®</sup> 乳剤 水和剤** は、**ミルベノック<sup>®</sup> 乳剤** から生まれた殺ダニ・殺虫剤です!

**天然物**

● **放線菌が作り出す有効成分ミルベメクチン!!**

◆ 以下をはじめとする計**30**以上もの都道府県での **特別栽培農産物認証制度** において、化学合成農薬としてカウントされません!

- 北海道 特別栽培農産物 認証制度 **YES!clean**
- 青森県 特別栽培農産物 認証制度
- 千葉県 **ちばエコ農業**

- 鳥取県 特別栽培農産物 認証制度 **とっりの恵み**
- 島根県 **エコロジー農産物** 推奨制度
- 愛媛県 特別栽培農産物 認証制度 **エコえひめ**
- 香川県 **さめぎエコ農産物** 表示認証制度 など

ミルベメクチンは、土の中の放線菌から生まれた有効成分です。

● **世界が注目しています!!**

◆ EU農業先進国**オランダ**で、**有機農業に使用可能!**

オランダ農業管理局CTBにより『自然起源の作物保護剤—GNO (gewasbeschermingsmiddel van natuurlijke oorsprong)』として指定されましたので、ミルベメクチンを有効成分とする農薬を有機農業に使用することが可能になっています。【温室内観賞用植物を対象に、登録・承認】

◆ 世界**33**の国と地域で登録取得!



# ハダニ剤としてのコロマイト®



カンザワハダニ



ナミハダニ



リンゴハダニ



ミカンハダニ



ミカンサビダニ



トマトサビダニ



トマトサビダニ被害

## ● 特長

ハダニの全ステージに有効!

速効的で、パンチ力が、強い!

適度な残効性!

他剤との交差抵抗性がない!

ハダニへのユニークな作用!

## ● ハダニ剤としての特性

- ハダニは動かなくなると静かに眠るように死んでいくので、体色の変化もなく、一見生きてるように見えます。

よく観察!



## ● 他剤との輪番使用

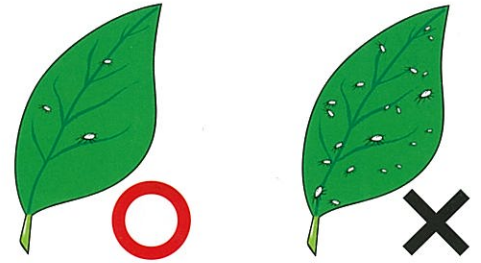
同一剤の連続散布はハダニの抵抗性を増加させる恐れがあるので、他の殺ダニ剤と輪番で使用してください。

# ● 上手な使い方

## 散布適期

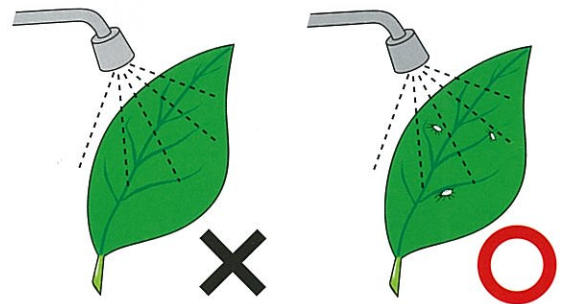
### ● ハダニ発生初期の密度の低い時期！

激発してからでは、ダニの増殖速度の方が速くなり、効果が劣る場合が多いので、低密度時の散布が効果的です。



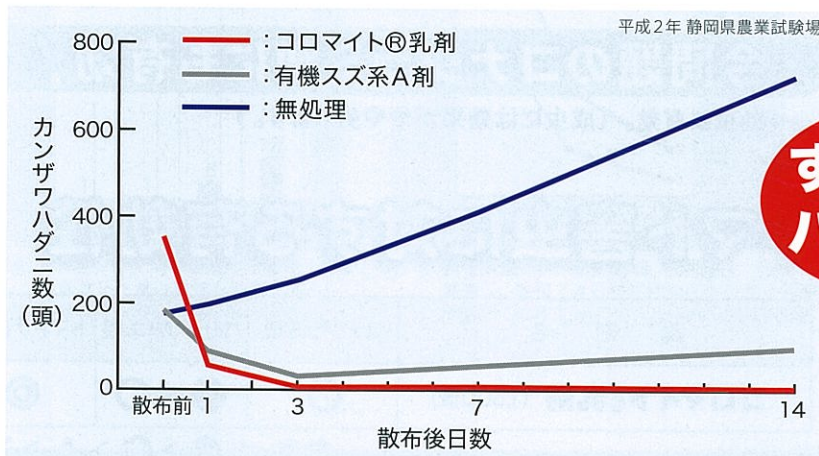
### ● 予防散布はさけてください！

ハダニ発生が全くない時に処理するような予防的使用法は、本剤の特長を十分に発揮できないので注意してください。



### ● パンチ力を生かすために発生してから処理！

ハダニが発生している時に処理すれば、卵から成虫までの全てのステージに対して高い活性があるので、急激に密度を低下させることができます。



発生状況：中 品種：温室メロン 定植：3月15日 処理：5月16日に肩掛け式噴霧器で散布した。  
調査：散布直前、散布翌日、3日、7日、14日後に、散布直前に調査した葉を継続して調査した。

## 散布方法

### ● 散布液量は十分に！

浸透移行性がないので、すべての葉に薬液がかかるよう、散布液量は十分に準備してください。



### ● ていねいに散布！

ハダニは葉裏にも多く生息します。葉裏にも薬液がかかるよう、ていねいに散布してください。



# 殺虫剤としてのコロマイト®



タバココナジラミ  
(シルバーリーフコナジラミ)



マメハモグリバエ成虫



マメハモグリバエ幼虫



マメハモグリバエ被害



オンシツコナジラミ



チャノホコリダニ



チャノホコリダニ被害



ユキヤナギアブラムシ

## ● 特 長

各種の野菜害虫にすぐれた効果!

ハモグリバエ類にもすぐれた効きめ!

ハモグリバエ類(マメハモグリバエ、トマトハモグリバエ)に対して、すぐれた効きめがあります。

サビダニに、卓越した効果!

ハダニと同様にサビダニ、チャノホコリダニに対しても、すぐれた効果と同時にパンチ力を発揮するので密度を急激に低下させることができます。

今問題のコナジラミ類にも有効!

幼虫に有効。(成虫には効果がやや劣ります。)

## ● トマト害虫に対する有効性

薬 剤 名	コナジラミ類	ハモグリバエ類	トマトサビダニ
コロマイト®乳剤 (1,500倍)	○	◎~○	◎

効果 - 大 ◎ > ○ > △ > × 小

## ● 上手な使い方

### アブラムシに対する効果

成虫(有翅)	成虫(無翅)
◎~○	○

### ● ユキヤナギアブラムシ

平成13年 福島県果樹試験場

薬 剤 名	防除効率	100
コロマイト®乳剤 (1,000倍)		90
ネオニコチノイド系B剤 (4,000倍)		97
有機リン系C剤 (1,500倍)		90
無 処 理	—	

発生状況: 中→多 品種: ふじ(りんご) 処理: 5月28日に動力噴霧器を用いて散布した。  
調査: 散布前および3,7,14日後にアブラムシ類の個体数を調査した。

# マメハモグリバエに対する効果

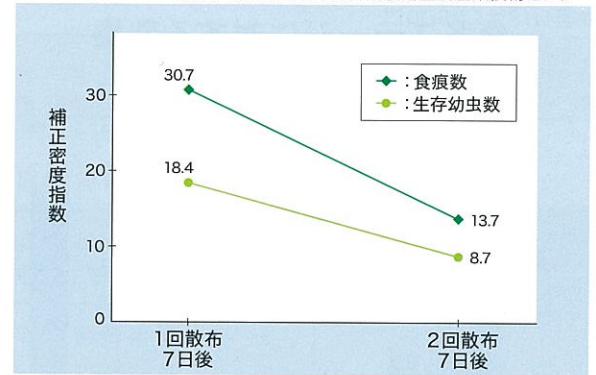
卵	若齢幼虫	老齢幼虫	蛹	成虫
○~△	◎	△	×	△

## 散布方法

1回散布よりも2回散布の方が有効ですが、本剤は殺ダニ剤ですので、他剤との輪番で使用してください。マメハモグリバエ自身の抵抗性対策にも輪番使用が好ましいと思われます。

発生状況：中 品種：レンブラント(トマト) は種：6月18日 定植：8月14日  
 処理：9月6日、9月13日の2回、肩掛け電動噴霧器を用いて散布した。  
 調査：1回目散布7日後、2回目散布7日後に幼虫の生存数と脱出痕を調査した。

平成11年 愛知県農業総合試験場豊橋農業技術センター

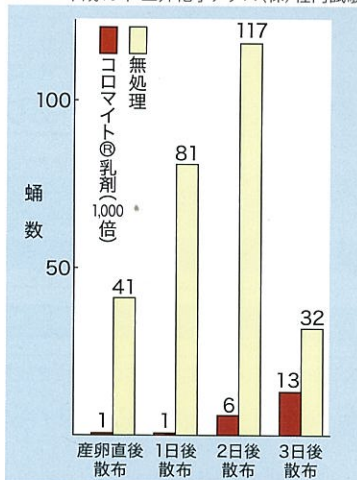


## 散布時期

若齢幼虫に高い効果を示しますが、老齢幼虫には効果が劣る場合がありますので、被害が見え始めたなら直ちに散布してください。また、予防効果は期待できません。

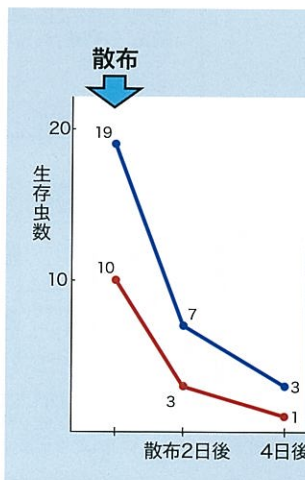
### ①卵に対する効果

平成10年 三井化学アグロ(株)社内試験



処理：インゲン(ポット)に成虫を接種し、産卵させた葉に薬液を散布する。  
 調査：幼虫から生育した蛹の数を調査した。

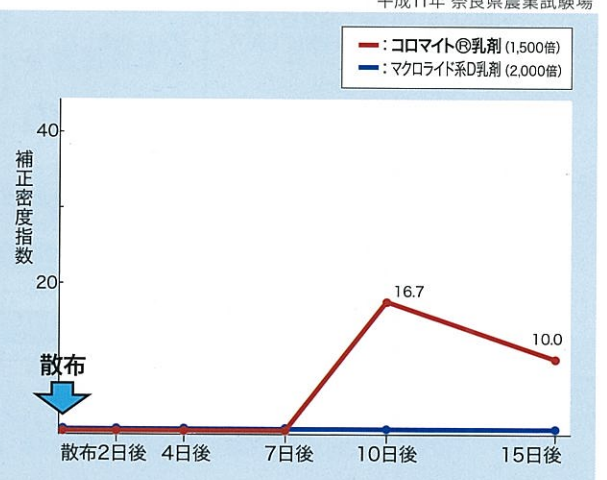
### ②2~3齢幼虫に対する効果



発生状況：少→中 定植：2月23日 品種：千両2号(なす) 処理：9月27日に手動噴霧器で散布した。  
 調査②：散布2,4日後に幼虫の生存数を調査した。  
 調査③：散布2,4,7,10,15日後に生存幼虫数、脱皮数を調査した。

### ③新規寄生幼虫の生存(脱出)数

平成11年 奈良県農業試験場



# サビダニに対する効果

卵	若虫	成虫
◎	◎	◎

モモサビダニ、トマトサビダニ等の発生時散布で卓効を示し、密度をほぼゼロに落とします。

## ●トマトサビダニ

平成13年 兵庫県植物防疫協会

薬剤名	防除率		処理前寄生虫数
	75	100%	
コロマイト®乳剤 (1,500倍)	100 (0)	100 (0.5)	700
マクロライド系D乳剤 (2,000倍)	92.8 (28)	98.1 (12.5)	339
無処理	0 (719)	0 (1,192)	624

発生状況：中 品種：南光2号(トマト) 定植：8月18日  
 処理：9月24日に肩掛け式噴霧器を用いて散布した。  
 調査：散布前および散布3,8日後に実体顕微鏡下でサビダニ数を調査した。



# コナジラミ類に対する効果

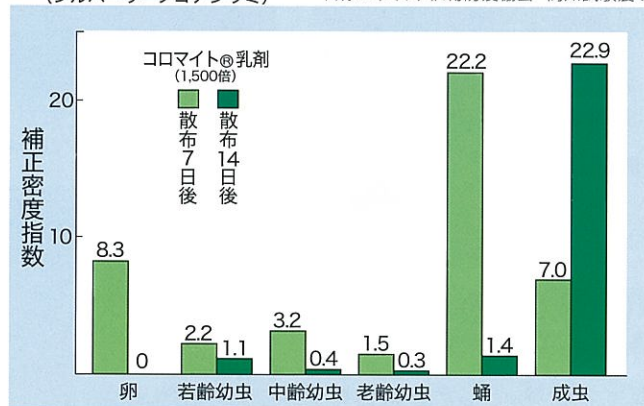


**散布時期・方法** 卵から成虫までの各ステージに活性がありますが、卵、蛹には効果がやや低い傾向があります。他剤との輪番で使用してください。

## ●各ステージに対する効果

### ■タバココナジラミ (シルバーリーフコナジラミ)

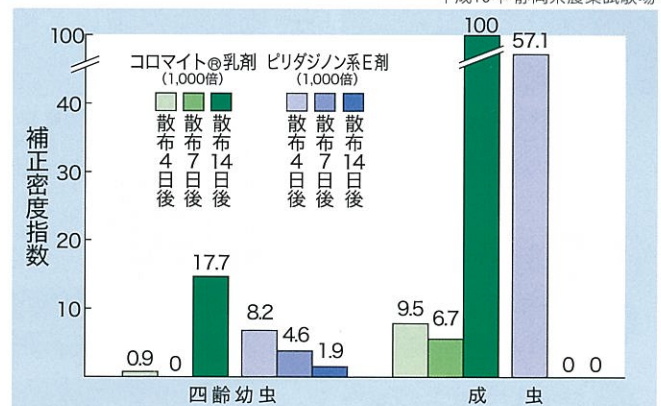
平成12年 日本植物防疫協会・高知試験農場



発生状況：中 定植：5月10日 品種：桃太郎(トマト)  
 処理：6月1日に動力噴霧器で散布した。  
 調査：散布当日, 7, 14日後に生育ステージ別に調査した。

### ■オンシツコナジラミ

平成10年 静岡県農業試験場



発生状況：少 定植：7月25日 品種：ミニキャロル(トマト)  
 処理：8月20日に肩掛け式噴霧器を用いて散布した。  
 調査：散布前, 4, 7, 14日後に成虫数および四齢幼虫を調査した。

### ■タバココナジラミ バイオタイプQ

防除の難しいバイオタイプQにも高い効果があります。

平成18年 熊本県農業研究センター生産環境研究所

	散布13日後の防除価 (成虫+蛹)
コロマイト®乳剤 (1,000倍)	86
ピリダジノン系E剤 (1,000倍)	99

定植：6月8日 品種：アールスメロン(メロン)  
 処理：7月8日に背負い式動力噴霧器を用いて散布した。  
 調査：試験区から調査株として4株を選び、調査株から上位、中位、下位葉を各1枚、計12葉について、散布前、散布13日後に成虫・蛹数を調査した。

平成18年 三井化学アグロ 社内試験

	補正死亡率
成虫	100
幼虫	100

成虫：くりぬいたピーマン葉にコロマイト®乳剤を散布し、成虫を放飼し、5日後に調査した。  
 幼虫：くりぬいたピーマン葉に産卵させ、孵化を確認後、コロマイト®乳剤を散布し、6日後に調査した。

## ■殺虫効果を期待する時の注意事項

- ①コロマイト®乳剤はハダニ剤ですので、連続散布はさけてください。(作物によっては使用回数が1回のみがありますので、登録内容をよくご確認ください。)
- ②りんごに使用する場合は、7月以降に散布してください。(5~6月の散布例が少ない。)
- ③殺菌剤などとの混用が必要な場合は、混用事例のある組み合わせで使用してください。

## ■天敵・有用昆虫への影響の目安

【直接散布した場合の死亡率】

◎:死亡率0~25% △:死亡率50~75%  
 ○:死亡率25~50% ×:死亡率75~100%

### ■天敵

虫名	ミルベメクチンの安全性	安全日数
イサエアヒメコバチ	○	1日
エルビニアカロトポーラ	◎	1日
オンシツツヤコバチ	△	1日
ククメリスカブリダニ	×	5日
チリカブリダニ	×	7日
ケシハネカクシ	◎	1日
コレマンアブラバチ	○	1日
ショクガタマバエ	◎	1日
ナミテントウ	○	1日
ハモグリコマユバチ	△	1日

虫名	ミルベメクチンの安全性	安全日数
サバクツヤコバチ	○	0日
ハモグリミドリヒメコバチ	△	3~5日
ヒメハナカメムシ	○	1日
ヤノネキイロコバチ	×	3~5日

### ■有用昆虫

虫名	ミルベメクチンの安全性	安全日数
ミツバチ	◎	1日
マルハナバチ	◎	1日
カイコ	×	50日以上

# コロマイト® 乳剤

■有効成分：ミルベメクチン…1.0%

■毒性：普通物※

※「毒物および劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## ■使用基準 (抜粋)

【2009年1月21日現在】

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り 散布液量(L)	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	ミルベメクチン を含む農薬の 総使用回数
りんご	リンゴハダニ ナミハダニ キンモンホソガ リンゴサビダニ ユキヤナギアブラムシ	1,000	200~700	収穫前日まで	散布	1回	1回
	もネクタリン			ハダニ類 モモサビダニ			
なし	ハダニ類	1,000~1,500	100~300	収穫前日まで			
	ニセナシサビダニ			収穫7日前まで			
おうとう	ハダニ類	1,000	100~300	収穫前日まで			
かんしょ	ハダニ類	1,000~2,000	100~150	収穫前日まで			
あずき	ハダニ類			収穫14日前まで			
なす	ハダニ類 マメハモグリバエ コナジラミ類 チャノホコリダニ	1,500	100~300	収穫前日まで	2回以内	2回以内	
	トマト			ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類			
きゅうり	ハダニ類	1,000~1,500	100~300	収穫7日前まで			
	コナジラミ類	1,500					
すいか	ハダニ類	1,000	100~300	収穫前日まで			
メロン	ハダニ類 トマトハモグリバエ コナジラミ類						
きく(葉)	ハモグリバエ類	1,500	—	—			
きく							

上記以外に、パパイヤ、やまのいも、やまのいも(むかご)、いんげんまめ、いちご(親株床)、アスパラガス、セルリー、みつば、パセリ、モロヘイヤ、エンサイ、ふだんそう、さといも(葉柄)、はすいも(葉柄)、みょうが(花穂)、みょうが(莖葉)、えごま(葉)、食用金魚草、食用なでしこ、しよくようほおずき、しそ、しそ科葉菜類(えごま(葉)、しそを除く)、しそ(花穂)、さんしょう(葉)、コリアンダー(葉)、ししとう、宿根かすみそうに登録があります。

## ■注意事項

- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布してください。
- 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用してください。
- ハモグリバエ防除に使用する場合、老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるので発生初期に時期を失わず、散布してください。
- 高温、乾燥時の散布は薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 展着剤によっては薬害を助長するものがあるので、汎用性展着剤以外の使用はさけてください。特にアルキルエーテル系の展着剤は使用しないでください。
- りんごに使用する場合は、混用散布すると新しょう基部及び果そう部小葉が黄化する場合がありますので注意してください。
- なしに使用する場合は、薬害のおそれがあるので6月以前には使用しないでください。
- 洋なし(ル・レクチェ)に使用する場合は、薬害のおそれがあるので袋かけ後に散布してください。
- なすに使用する場合は、効果を落さず薬害をさけるために、炎天下をさけるべく夕方に散布してください。
- なすの水なす及び加茂なす(大芹川種)には薬害のおそれがあるので、使用しないでください。
- いちごに使用する場合は、親株床以外では薬害を生ずるおそれがあるので、親株床以外では使用しないでください。
- 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意してください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し眼科医の手当を受けてください。
- 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。

# コロマイト® 水和剤

■有効成分：ミルベメクチン…2.0%

■毒性：普通物※

※「毒物および劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## ■使用基準

【2008年10月31日現在】

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り 散布液量(ℓ)	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	ミルベメクチン を含む農薬の 総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ チャノホコリダニ ミカンキジラミ	2,000	500～700	収穫7日前まで	散布	2回以内	2回以内
	ミカンサビダニ	2,000～3,000					
りんご	リンゴハダニ	2,000	400～700	収穫前日まで		1回	1回
なし	ハダニ類		200～700	収穫7日前まで		2回以内	2回以内
ぶどう							
すいか							
メロン きゅうり なす							
いちご	シクラメンホコリダニ		100～300	収穫前日まで		1回	1回
食用ぎく	ナミハダニ		100～200	発生初期		2回以内	2回以内
きく							
ばら							
りんどう							
げっきつ	ミカンキジラミ	100～300					

適用場所	作物名	適用害虫名	10アール当り 使用量	10アール当り 使用液量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数	ミルベメクチン を含む農薬の 総使用回数
温室、ガラス室 等で密閉 できる場所	みかん	ミカンハダニ	200g	20ℓ	収穫7日前まで	常温煙霧	2回以内	2回以内
	大粒種ぶどう	ハダニ類	150g	15ℓ				

## ■注意事項

- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ってください。
  - 1.煙霧用として使用する場合は、専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。
  - 2.作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布してください。
- 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年1回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用してください。
- 高温、乾燥時の散布は薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 洋なし(ル・レクチェ)に使用する場合は、薬害のおそれがあるので袋かけ後に散布してください。
- なすに使用する場合は、効果を落さず薬害をさけるために、炎天下をさけるべく夕方に散布してください。
- ぶどうに使用する場合は、果実に汚れが生じるおそれがあるので注意してください。
- 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。  
○容器・空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。 ○防除日誌を記載しましょう。

\*本製品は農業用殺虫剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。  
\*本印刷物は2009年4月1日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

## 取扱い



**三井化学アグロ株式会社**  
東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター  
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>